平成２８年度

学校評価結果

北海道帯広農業高等学校

定時制

平成２８年度　北海道帯広農業高等学校定時制課程　学校評価項目

No.	評　　価　　項　　目
1	本校定時制は、　１農業教育を通して、働くことの大切さを学び、積極的に社会参加できる生徒を育てる。 ２農業実習を通して健全な体と精神力を養う。 ３教材作物の栽培を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。 ４地域社会の教育力を生かした学習をすすめ、就労感と責任感を身につけさせる。 という教育目標を設定しています。これらの目標は地域の皆様の要望に応えるものとなっていると思いますか。
2	本校定時制は昼間の４年制です。３年次までは全日と同じ登校時間帯で学習し、３年次に就職試験を受け、４年次は社会人１年生かつ定時制４年生として、働きながら月１回の登校で就業実績報告、課題作文、各種講話を行っています。特に、必要に応じて個人面談による就労問題解決や再就職活動により、４年修了時は安定した職業に就いている者が多くなっています。 このような形の教育は、地域の皆様の要望に応えるものとなっていると思いますか。
3	本校定時制は、学習の柱として３年次に５日間の企業体験学習を行っています。「働く力」を育てるために学校農場での実習や保護者の理解のもと地域の農家や企業との連携による体験学習を重視していますが、生徒の姿や進路実現に反映していると思いますか。
4	本校定時制では定時制農業クラブ編集局『緑園』の発行などを通して学校情報の迅速な発信に心掛け、地域に開かれた学校・信頼される学校づくりに取り組んでいますが、その成果が現れていると思いますか。
5	本校定時制では、服装・頭髪・挨拶等の基本的生活習慣の確立や、いじめ根絶の取組・薬物乱用防止教室の開催・携帯電話使用マナーの徹底など規範意識の向上、交通ルール遵守指導などの社会的マナーを身につけさせるように取り組んでいますが、その成果が現れていると思いますか。
6	本校定時制では「健全な心」の育成の一環として、年間３回の帯広養護学校との交流活動を実施していますが、その成果が現れていると思いますか。
7	本校定時制の農業教育は、食農教育を柱としています。自ら作物を育て、収穫し、加工・調理し、食するという食農教育で「心身の健全育成」と「働く力の育成」をめざしていますが、その成果が現れていると思いますか。
8	本校定時制では、保護者の方々の経済的負担軽減にも配慮して、生徒の放課後のアルバイトも認めていますが、このような形の教育は、地域の皆様の要望に応えるものとなっていると思いますか。

北海道帯広農業高等学校定時制

平成28年度学校評価に係る自己評価の結果（定時制課程）

1 実施方法

（1）教職員・学校関係者（保護者・定時制OB・PTA役員・市内中学校・関係機関）に学校評価表を配布。

（2）評価項目毎に目標を達成しているかどうか4段階（A～D）評価を行うとともに、課題や意見などを記載した。

なお、評価表ではE（判断できない、分からない）の区分も設けた。

※A：十分である　B：概ね十分である　C：不十分である　D：改善を要する　E：判断できない

2 実施回答数

教職員8名

関係者35（保護者18名、定時制OB2名、PTA3名、市内中学校6校、関係機関6社）

3 学校評価結果　（上段：回答人数、下段：割合）

評価項目		A	B	C	D	E	合 計
1 定時制の教育活動	教職員	2	4			2	8
		25.0%	50.0%			25.0%	100.0%
	関係者	27	7			1	35
		77.1%	20.0%			2.9%	100.0%
	【考察】 評価結果についてA・B評価を合わせると、教職員では75%、関係者では97.1%と高い評価を得た。農業教育を柱とした教育活動を通して、生徒の成長を目指す定時制教育の方針は、地域からの要望に応え、ご理解ご支援をいただいていると考える。 【意見等】 ・交流学習を通し、定時制の生徒と触れ合う機会をいただき、生徒たちは「働くことの大切さ」や積極的な社会参加など、自分の将来の見通しをイメージしているように感じた。 ・生徒参加型の内容が多い点が、効果を上げている要因であると思う。						

評価項目		A	B	C	D	E	合 計
2 昼間4年制の意義	教職員		5	1		2	8
			62.5%	12.5%		25.0%	100.0%
	関係者	23	9			3	35
		65.7%	25.7%			8.6%	100.0%
	【考察】 教職員による評価においてE評価は時間講師の先生によるものである。地域に意義が理解されていない面があるとの意見もあるが、関係者の評価ではA・B合わせて91.4%と高い評価であることから、4年次に就職（進学）しながら学ぶ定時制昼間4年制の意義は十分理解され、その役割を果たしていると考えられる。 【意見等】 ・地域の要望に応えるものであると考える。長年に渡り、役割を果たしてくれたと思う。 ・社会人として慣れるという意味も含め、4年制については適切な対応だと思う。 ・地域に定時制としての意義を十分に理解されていない面を感じる。また、職の定着という観点からみても要望を捉えていないように思う。						

評価項目		A	B	C	D	E	合 計
3 体験学習の重視	教職員	4	2	1		1	8
		50.0%	25.0%	12.5%		12.5%	100.0%
	関係者	21	11			3	35
		60.0%	31.4%			8.6%	100.0%
	【考察】 今年度から農家委託実習がなくなり、体験学習は3年生による企業体験学習のみとなった。『働く力』の育成において体験学習の重要性や必要性が評価となって表れている。反面、直接進路実現に反映していないという意見もあった。 【意見等】 ・高校時に体験を通じた学習は重要であると思う。また、生徒の卒業後の進路にも反映しているように思う。 ・農業教育を通じた「働く力」の育成のための自然を活かした教育環境、そして、先生方の情熱あふれたご指導や様々な教材の工夫など、毎年素晴らしいと感じている。 ・企業体験は一つの経験であり、直接進路実現に反映していると思えない点もある。						

評価項目		A	B	C	D	E	合 計
4 開かれた学校づくり	教職員	2	3	1		2	8
		25.0%	37.5%	12.5%		25.0%	100.0%
	関係者	17	14			4	
		48.6%	40.0%			11.4%	
	【考察】 評価結果からホームページの更新や定時制通信「緑園」の定期的な発行によって学校行事や各種大会結果・行事等の情報を各家庭や地域に発信することで大きな成果が得られたと考える。 【意見等】 ・地域に開かれた学校、信頼される学校づくりに役立っている。学習内容やクラブ活動などが理解できる。 ・通信の発行によって保護者を始め、全日制との情報共有は図れていたと思う。						

評価項目		A	B	C	D	E	合　計
5　生活習慣・マナー	教職員		5	2		1	8
			62.5%	25.0%		12.5%	100.0%
	関係者	20	8	3		4	35
		57.1%	22.9%	8.6%		11.4%	100.0%
	【考察】 ・評価結果から、概ね成果が得られたように思う。日頃の学校生活において、教職員のきめ細かな指導が評価結果に繋がったものと考える。次年度も継続し更なる向上目指して取り組んでいきたい。 【意見等】 ・どの生徒からも笑顔で挨拶をいただいた。成果は表れていると思う。 ・必ずしも成果が表れているかは疑問である。						

評価項目		A	B	C	D	E	合　計
6　異校種との交流	教職員	4	2	1		1	8
		50.0%	25.0%	12.5%		12.5%	100.0%
	関係者	19	11			5	35
		54.3%	31.4%			14.3%	
	【考察】 異校種との交流がインクルーシブ教育の構築にも繋がり、結果、高い評価をを得ることができた。しかし、閉課に伴う生徒の減少による、けいせい苑との交流の中止や次年度の帯広養護高等学校との交流も不可能になることから地域の中での役割を本校として今後どう担っていくかが大きな課題となる。 【意見等】 ・帯広高等養護学校との交流学習は昨年度で終了のところ、今年度は3回実施していただいた。同じ地域に住む、同じ世代が障害の有無に関わらず、触れ合う機会は有意義な学習となった。 ・成果が表れているか否かは別として異校種と交流することは大切である。 ・相互の学習の目標は達成し、個々のコミュニケーション能力は向上した。						

評価項目		A	B	C	D	E	合　計
7　食農教育の成果	教職員	2	5			1	8
		25.0%	62.5%			12.5%	100.0%
	関係者	24	9			2	35
		68.6%	25.7%			5.7%	100.0%
	【考察】 評価結果から農業高校として食農教育から「心身の健全育成」や「働く力の育成」において概ね成果が表れた。次年度は就職（進学）先を通して社会人として成長できるようサポートに努めたい。 【意見等】 ・生徒が育てた農作物を購入させていただいた。本当にい美味しくいただくことができた。食農教育の成果であると思う。 ・学年において、段階的な実習や研究によって成果は向上している。						

評価項目		A	B	C	D	E	合　計
8　経済的負担軽減	教職員	4	2	1		1	8
		50.0%	25.0%	12.5%		12.5%	100.0%
	関係者	23	10			2	35
		65.7%	28.6%			5.7%	100.0%
	【考察】 評価者全体で見ると、概ねA、B評価の割合が多く支持されていると考えられる。特に、保護者からの評価は高く、経済的負担軽減がなされていると伺える。 【意見等】 ・地域の要望に応えているものと考えます。 ・アルバイトの職種、内容、目的が保護者や生徒の認識に差があり、地域の要望に応えているか疑問。						

4　課題と来年度に向けた対応

今年度、学校評価実施の際、アンケートを集計し学校関係者からの意見・要望で一番多く寄せられていたのが、「定時制がなくなるのがとても残念です。」、「長年に渡り農業高校定時制としての役割を果たしたと思います。」という定時制閉課に係る意見であった。来年度は閉課に向けて残すことろ、4年生のみとなり、月に1度の登校日となるため、実質、帯広農業高等学校定時制課程の学校評価については今年度が最後となる。

帯広農業高等学校定時制課程は昭和25年に併置され、農業科1間口の昼間定時として、農業教育を柱に「働く力の育成」を目指し、地域と連携した教育活動を展開しながら高度な農業技術や知識を習得させ、農業経営者、農業従事者、農業関連技術者を輩出してきた。しかし、時代の流れの中で本校定時制のニーズも変化し、現在は農業後継者を担うために入学する生徒は皆無であり、多種多様な生徒たちの受け皿としての役割を担っている。また、平成27年度入学生から募集停止となり、平成30年3月で67年の歴史に幕を閉じることとなった。

地域に望まれる定時制のニーズに応えるために農業教育を柱として「働く力」の育成を目指し取り組んで来た。中でも体験学習に重点を置き、2年次には農家委託実習、3年次には企業体験学習に加えて、けいせい苑や帯広高等養護学校など異校種との交流を実施する中で生徒に「働く力」を育んできた。また、4年次においては就職（進学）した生徒達に月に一度の登校日を設け、社会（進学先）の中で様々な課題に直面し悩みを持つ生徒に適切な助言やアドバイス等を行うことで早期離職や早期退学の未然防止に努めてきた。

今年度の学校評価アンケートでの学校関係者からの意見や要望を見ても、本校定時制の取組みに関して十分に理解を得られており、地域に望まれた役割を果たすことができたとものと考えられる。

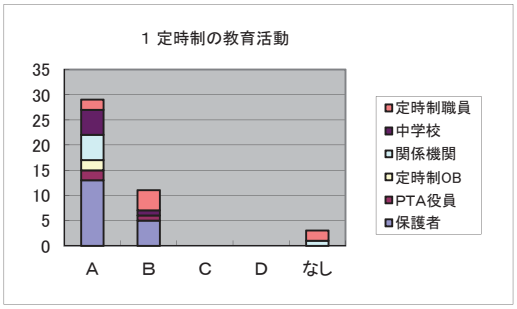
来年度は次の進路へと進む4年生のサポートをしていくとともに、67年の歴史の幕引きを務められるよう閉課に向けて万全に準備を進めていきたいと考える。

北海道帯広農業高等学校定時制課程　学校評価 H28集計

※評価項目について、A:十分　B:概ね十分　C:不十分　D:要改善　なし:判断できない　で回答

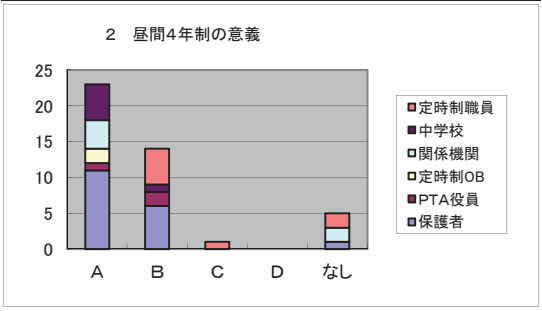
1定時制の教育活動

	A	B	C	D	なし
保護者	13	5			
PTA役員	2	1			
定時制OB	2				
関係機関	5				1
中学校	5	1			
定時制職員	2	4			2



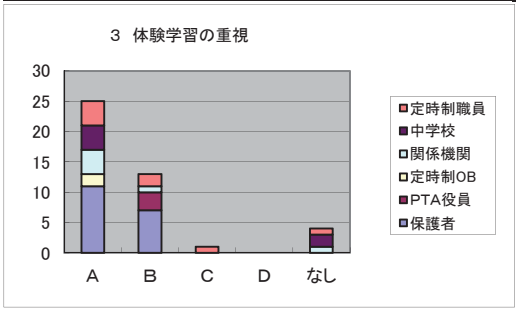
2　昼間4年制の意義

	A	B	C	D	なし
保護者	11	6			1
PTA役員	1	2			
定時制OB	2				
関係機関	4				2
中学校	5	1			
定時制職員		5	1		2



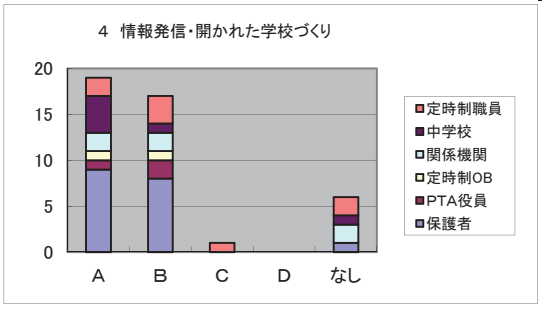
3　体験学習の重視

	A	B	C	D	なし
保護者	11	7			
PTA役員		3			
定時制OB	2				
関係機関	4	1			1
中学校	4				2
定時制職員	4	2	1		1



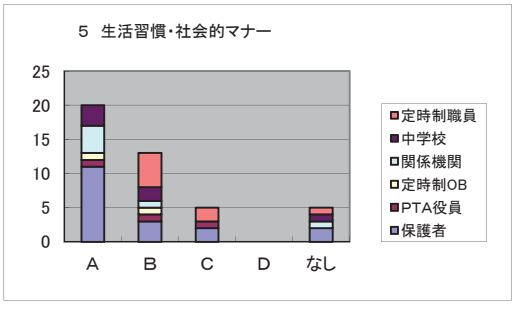
4　情報発信・開かれた学校づくり

	A	B	C	D	なし
保護者	9	8			1
PTA役員	1	2			
定時制OB	1	1			
関係機関	2	2			2
中学校	4	1			1
定時制職員	2	3	1		2



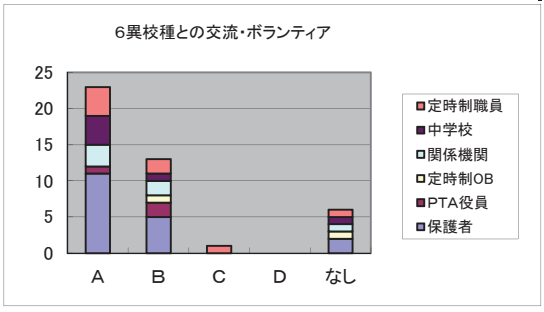
5　生活習慣・社会的マナー

	A	B	C	D	なし
保護者	11	3	2		2
PTA役員	1	1	1		
定時制OB	1	1			
関係機関	4	1			1
中学校	3	2			1
定時制職員		5	2		1



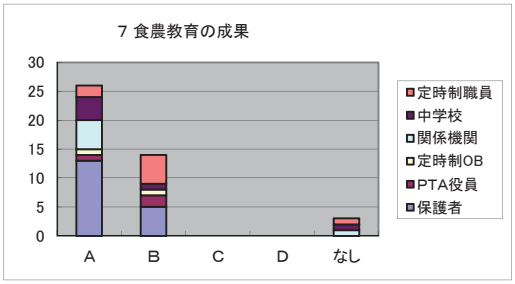
6　異校種との交流・ボランティア

	A	B	C	D	なし
保護者	11	5			2
PTA役員	1	2			
定時制OB		1			1
関係機関	3	2			1
中学校	4	1			1
定時制職員	4	2	1		1



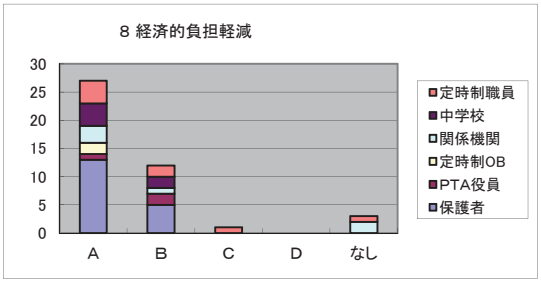
7　食農教育の成果

	A	B	C	D	なし
保護者	13	5			
PTA役員	1	2			
定時制OB	1	1			
関係機関	5				1
中学校	4	1			1
定時制職員	2	5			1

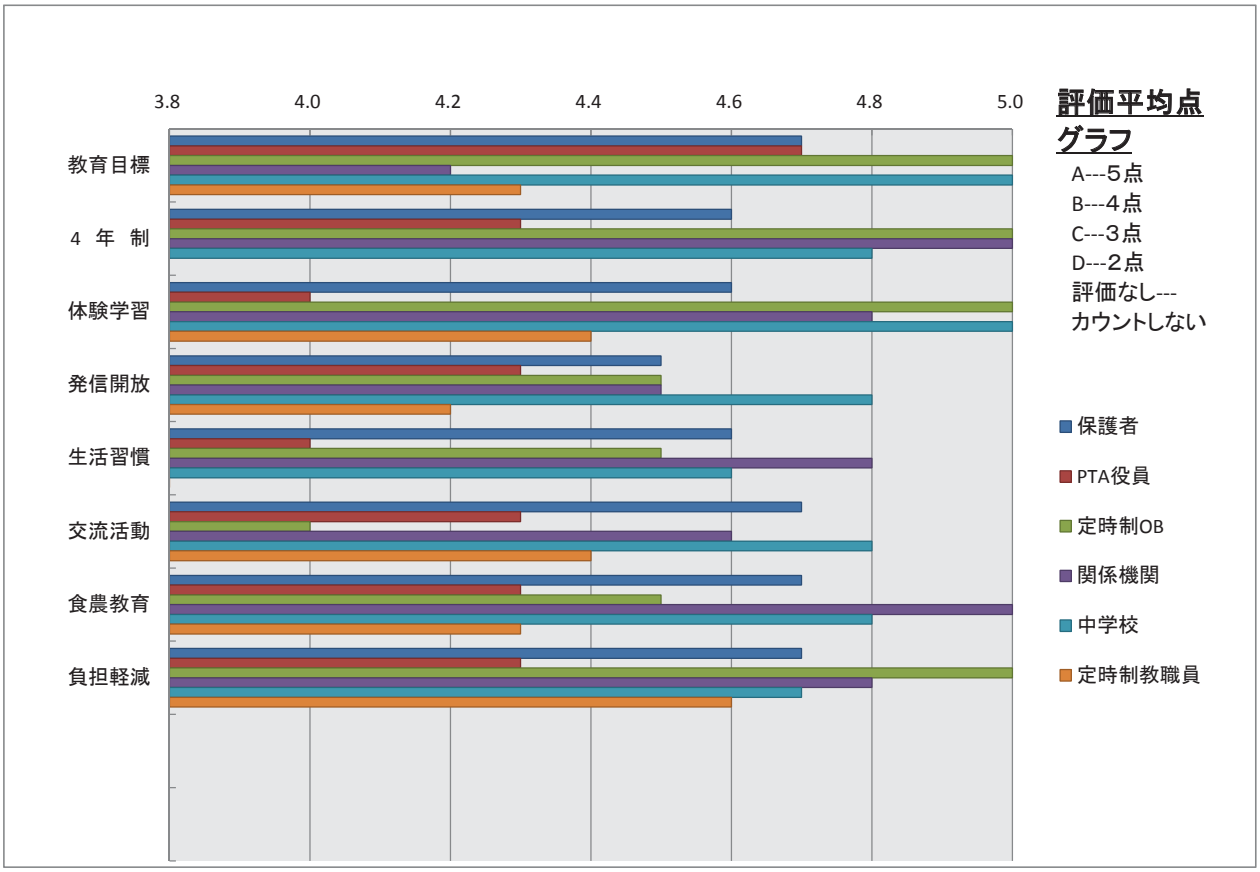


8　経済的負担軽減

	A	B	C	D	なし
保護者	13	5			
PTA役員	1	2			
定時制OB	2				
関係機関	3	1			2
中学校	4	2			
定時制職員	4	2	1		1



項　目	教育目標	4年制	体験学習	発信開放	生活習慣	交流活動	食農教育	負担軽減
保 護 者	4.7	4.6	4.6	4.5	4.6	4.7	4.7	4.7
PTA役員	4.7	4.3	4.0	4.3	4.0	4.3	4.3	4.3
定時制OB	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.0	4.5	5.0
関係機関	4.2	5.0	4.8	4.5	4.8	4.6	5.0	4.8
中 学 校	5.0	4.8	5.0	4.8	4.6	4.8	4.8	4.7
定時制教職員	4.3	3.8	4.4	4.2	3.7	4.4	4.3	4.6



平成28年度学校評価に係る学校評議員の結果
（定時制課程）

5人（4名回答）の学校評議員による評価及び意見・課題は次のとおり。

1	自己評価の実施方法は適切か （評価項目の設定等は適切か）	A 適切である	B ほぼ適切である	C やや不適切である	D 不適切である
		4			
	【意見】				
	・定時制教育の方針に添っていると思う。				
2	取組みは適切か （評価項目を受け取組んだ内容は適切か）	A 適切である	B ほぼ適切である	C やや不適切である	D 不適切である
		4			
	【意見】				
	・全般的に良いと思う。				
3	自己評価は適切か （自己評価の結果は適切か）	A 適切である	B ほぼ適切である	C やや不適切である	D 不適切である
		2	2		
	【意見】				
	・全体的に内容・事業等を良く見て認識していると思う。				
4	改善方策は適切か	A 適切である	B ほぼ適切である	C やや不適切である	D 不適切である
		2	1		
	【意見】				

【その他意見】

・いじまなどなく良いと思う。

・定時制課程閉課が残念ですが、過去は農業を継ぐ生徒が大半でしたが、時代背景でもあるが、農業を志す生徒がゼロになってしまった。いろいろな課題があると思いますが、働くと言うことをしっかりと身に付けて頂いて、残り1年を優秀の美で終わりますことを願うものです。